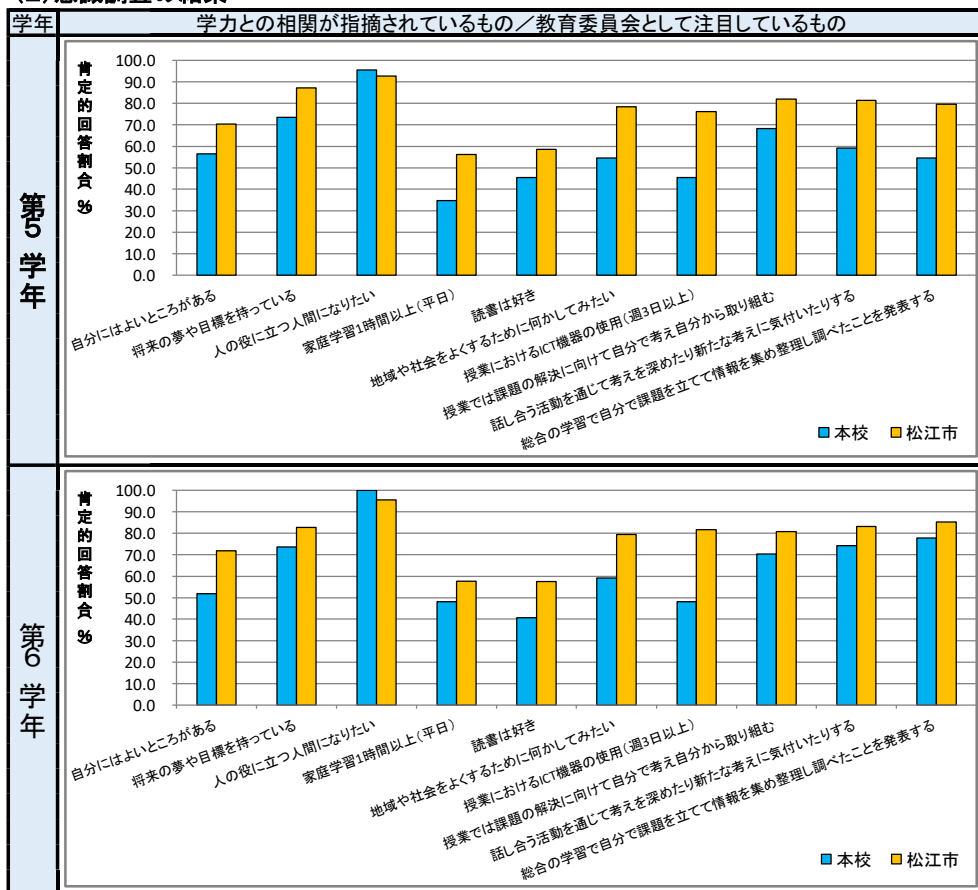


(1)教科調査の結果

学年	教科	分析(成果○/課題●)	改善策(→)
第5学年	国語	<p>○領域別では「話すこと・聞くこと」(55.4%)が、学年内で相対的に高いが、市区町村 71.6%の正答率である。</p> <p>●「読むこと」全般(説明文・物語)の理解 領域別「読むこと」15.5%(市区町村 38.1%)。説明文の内容把握・目的に応じた情報抽出・自分の考えの言語化が苦手。 物語文でも登場人物像の具体化・行動の根拠づけが苦手。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文章から根拠を見つける機会を意図的に設定 短い文章の読解練習を積み重ねる ニュースや新聞記事の感想を書く活動 漢字を使って書くことを日常化 初見の文章に対するアウトプットの増加 読書時間の確保
	算数	<p>○整数の最小公倍数など、一部の計算単元は良好 小問「最小公倍数を用いた問題」(正答率78.3%(市町村75.2%))など、手順が明確な既習事項では正答が伸びた。</p> <p>●数と計算:30.0 vs 54.4(▲24.4) ●データの活用:47.8 vs 71.7(▲23.9) ●領域別「図形」22.4%(市区町村 49.9%)。特に角の性質や合同の基礎など、定義や性質の言語化→活用が未定着。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎の徹底と発展問題の準備 家庭学習の在り方の検討(家庭も巻き込む) 進度や習熟に応じた学習環境の整備 黒板の写しにならないノート指導 問題文を整理する指導の継続
第6学年	国語	<p>○話す・聞く:協働的なやり取り 「グループで話し合う」では内容把握・比較(74.1%)、立場を明確にした議論(88.9%)などが高得点で、話し合いの基本行動が定着している。</p> <p>●説明文の構成理解・自分の考えの形成 全文の構成把握(25.9%)や、本文理解にもとづく考えのまとめ(7.4%)が大きな弱点。読解から思考・表現へのつながり ●物語の精読と根拠提示 物語では心情理解(40.7%)や全体像の具体化(25.9%)が伸び悩み。叙述から根拠を見つけることが苦手</p>	<ul style="list-style-type: none"> 条件付き作文の導入 自分の文章を読み直す経験(校正) 単元テストでの記述問題を強化 日記を日常化(紙・タブレット)する 自分の考えを常に表現する機械の設定
	算数	<p>○図形・面積体積・円での基礎 円の面積の公式選択(88.9%)、複合図形の面積(63.0%)、三角柱の体積(48.1%)など、図形領域の基礎～標準の問題が学年内で相対的に正答率が高い。 ○分数の計算→分数×整数(96.3%)、分数×分数(59.3%)など、規則化された計算手順は良かった。</p> <p>●比と割合の活用 等しい比の選択(37.0%)、部分→全体の推定(40.7%)など、比の意味づけ・操作に課題。比の値そのものは良い(74.1%)、文脈に即した活用が苦手。 ●拡大図・縮図の作図・読み取り 中心と縮尺を用いた作図(40.7%)、縮図の長さの決定(70.4%)など、作図・計測を伴う課題が苦手</p>	<ul style="list-style-type: none"> 低学年からの積み上げ意識 九九・加減乗除などの基礎的な計算の習熟 「答え」ではなく「説明」を大切にする 具体物と関連付けながら指導を行う

(2)意識調査の結果



＜傾向と今後の対策、分析＞

成果○:強み/伸ばしたい点 について
課題●:弱み/改善を要する点 について

【第5学年】

- 自己有用感・社会貢献意識が強い
- 将来の夢や目標をもっている割合が高く、目的意識が高い
- 家庭学習の時間が短く、生活習慣が課題
- 話し合い活動において、思考の深化の実感が弱い

【第6学年】

- 人の役に立ちたいという思いが強い
- 総合で課題を立てて発表することができ、探究の自覚が強い
- 授業におけるICTの活用が少ない
- 自己肯定感が低い

【R7学力調査受検者数】

第5学年	23	名
第6学年	27	名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示